

算

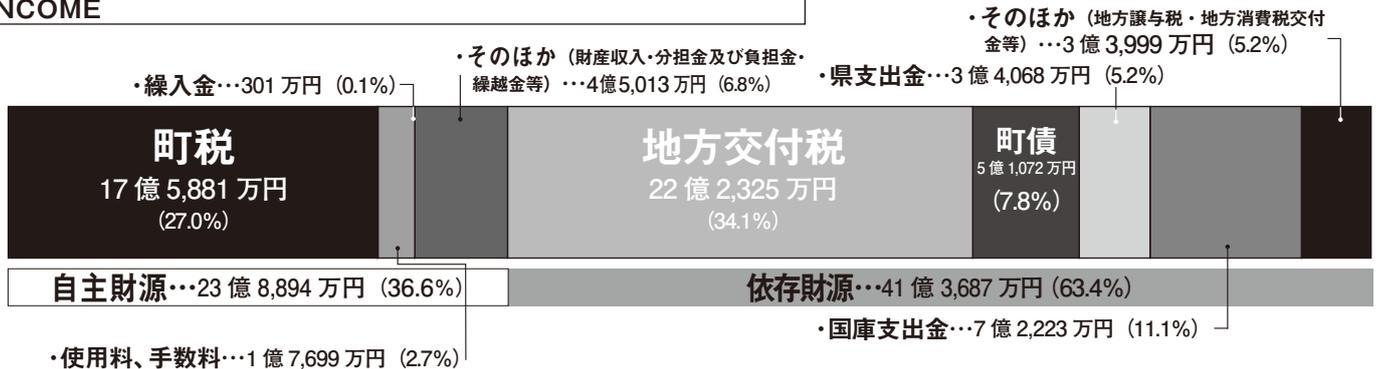
平成 21 年度の町の決算です。
町が行っている事業は、
皆さんが納めた税金や、
国・県からの補助金などでまかなわれています。
決算は、このお金が皆さんの暮らしやまちづくりの中で、
どのようにいかされてきたかをまとめたものです。
では、町の家計簿のあらましを見てみましょう。



一般会計

収入 65 億 2,581 万円

INCOME



※数字は四捨五入しているため、必ずしも合計と一致するとは限りません。

住民サービスの向上と新たなニーズに迅速かつ的確に対応できるよう、財源の確保に努め財政の健全化を図っています。

一般会計の収入総額は、65 億 2,581 万円です。収入は、自主財源と依存財源に分けることができます。

自主財源は、町税や繰入金、使用料・手数料、繰越金、財産収入など、町が独自に収入した財源で、平成 21 年度は 23 億 8,894 万円。そのうち町税は 17 億 5,881 万円で、収入全体の 27.0 パーセントを占めています。

依存財源は、地方交付税や国・県からの交付金、町債などで今年度は収入全体の 63.4 パーセントを占めています。このうち収入全体の 34.1 パーセントを占める地方交付税（全国各市町村の財政力のバランスを取るために国から配分されるお金）は 22 億 2,325 万円、国からの支出金は 7 億 2,223 万円、町債（道路や公園、学校など町が行う建設事業などの資金を調達するために国などから借り入れるお金）は 5 億 1,072 万円、県支出金は 3 億 4,068 万円となっており、依存財源による収入は 41 億 3,687 万円となっています。

と資金不足比率

鞍手町の財政健全化判断比率は次のとおりです。いずれも早期健全化基準、財政再生基準を下回っています。しかし今後も本町の財政状況は厳しい状況が続く見込みです。このため第 4 次総合計画を基本とした行財政改革を推進し、財政体質の健全化を図りつつ、創造性・自立性を高め、限られた財源の重点配分と経費支出の効率化を図っていきます。

平成 21 年度 財政健全化判断比率

単位：%

区分	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
鞍手町の比率	—	—	13.2	29.0
早期健全化基準	15.00	20.00	25.0	350.0
財政再生基準	20.00	40.00	35.0	基準なし

※（－）表示は黒字

- ・実質赤字比率…普通会計の赤字から財政運営の深刻度をみる比率
- ・連結実質赤字比率…すべての会計の赤字から財政運営の深刻度をみる比率
- ・実質公債費比率…起債の返済額等の大きさから資金繰りの危険度をみる比率
- ・将来負担比率…町が抱える負債の残高から将来財政への圧迫度をみる比率

行財政改革5年目。 まちづくりの基本となる第4次総合計画に基づき、 限りある財源の効率的な運用に努めました。

平成21年度はどんな仕事にお金を使ったのでしょうか。一般会計の支出総額は、64億4,611万円です。町民1人当たり35万9,114円が使われたこととなります。

支出は、使われるお金の目的によって総務費や民生費、土木費など14の項目に分けられています。このうち最も大きな割合を占めているのが民生費で介護保険広域連合への負担金として2億898万円、重度心身障害者や乳幼児、ひとり親家庭などの医療費補助に9,782万円を支出となり、平成21年度は支出全体の3割の額を占めています。衛生費では、ごみやし尿の処理に4億1,801万円を、土木費では、下水道事業の補助に1億7,672万円を使いました。

決

一般会計

64億4,611万円 支出

EXPENDITURE



・農林水産業費…8,555万円 (1.3%)

・消防費…3億229万円 (4.7%)



・議会費…8,519万円 (1.3%)

・そのほか (1.5%) ・労働費…2,014万円 ・商工費…4,421万円 ・災害復旧費…3,306万円

項目別支出内訳

民生費

- 介護保険広域連合負担金(2億898万円)
- 障害者の自立支援費に(2億5,936万円)
- 重度心身障害者や乳幼児、ひとり親家庭などの医療費対策に(9,782万円)
- 児童手当に(1億1,347万円)
- 老人保護措置の委託に(4,857万円)
- 社会福祉協議会への補助金(3,391万円)

総務費

- 交通安全施設の整備に(477万円)
- 鞍手駅関連施設の管理に(610万円)

衛生費

- ごみやし尿の処理に(4億1,801万円)
- 町立病院事業へ(1億9,161万円)
- 予防接種の業務委託に(1,709万円)
- 母子

- 保健対策に(1,329万円)
- 合併浄化槽の設置補助に(830万円)

土木費

- 下水道事業の補助に(1億7,672万円)
- (仮称)筑豊インターチェンジアクセス道路の負担に(1億4,350万円)
- 道路や橋の新設、整備に(6,103万円)
- 水路や河川の整備に(1,700万円)
- 急傾斜地崩壊対策に(1,682万円)
- 町営住宅の維持管理に(5,307万円)

教育費

- 外国青年招致事業に(508万円)
- 6小学校及び2中学校地上デジタル放送対応設備工事に(1,246万円)

消防費

- 直轄広域消防の負担金(2億7,157万円)
- 防火水槽の新設に(452万円)

農林水産業費

- 計画転作の推進に(1,831万円)
- 競争力ある土地利用型農業育成事業に(878万円)

商工費

- 路線バスの運行負担金(1,517万円)
- JRバス廃止に伴う代替バス補助金(520万円)
- 産業まつり補助金(180万円)

平成21年度 公営企業の資金不足比率

単位：%

特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準
鞍手町病院事業会計	—	20.0
鞍手町水道事業会計	—	20.0
鞍手町介護老人保健施設事業会計	—	20.0
鞍手町流域関連公共下水道事業会計	—	20.0

※ (一) 表示は黒字

・資金不足比率…企業会計の資金不足割合から経営状況の深刻度をみる比率

健全化判断比率

平成19年6月に市町村の財政の早期健全化や公営企業の経営の健全化などを目的に「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」が制定されました。この法律では、すべての都道府県や市町村が財政健全化判断比率や資金不足比率を算定し監査委員の審査に付した上で議会に報告し、住民のみなさんに報告することが義務付けられました。

国民健康保険事業特別会計

▷収入…20億694万円 ▶支出…20億6,214万円

自営業の人や退職者などの医療費を給付する会計です。主な収入は、保険税と国庫支出金。主な支出は、医療費や後期高齢者支援金などです。

●対象者 2,752世帯 4,737人 ●1人当たりの医療費 357,768円



後期高齢者医療特別会計

▷収入…1億9,186万円

▶支出…1億9,098万円

老人保健制度に代わり、平成20年度から始まった後期高齢者医療制度を運営するために設けられた会計です。

●対象者 2,410人
●1人当たりの医療給付費 870,838円

老人保健特別会計

▷収入…1,164万円

▶支出…1,200万円

平成20年3月末までに、75歳以上の高齢者などにかかった医療費をまかなうための会計です。



かんがい施設維持管理運営費特別会計

▷収入…5,541万円 ▶支出…5,540万円

西川沿い11か所に設置されているポンプの維持管理をするための会計です。収入は、基金からの繰入金と基金を運用して購入した国債などの利息です（平成21年度は、利息等3,681万円を積み立てています）。支出は、運転手の賃金やポンプを稼働させるための維持管理費です。



住宅新築資金等特別会計

▷収入…136万円 ▶支出…135万円

旧同和地区の住宅環境を改善するための会計です。主な収入は、貸付金の回収金、一般会計からの繰入金、県支出金で、支出のほとんどは町債の返済です。



流域関連公共下水道事業特別会計

▷収入…7億4,930万円 ▶支出…7億4,523万円

生活環境の向上と河川の汚濁防止を目的に下水道を整備するための会計です。支出の約63パーセントは、中山・古月地区などの下水道管の整備に使われました。また、約6パーセントは、中間市に建設している終末処理場（中間市、水巻町、遠賀町との共同事業）の建設負担金や維持管理負担金です。



谷山池パイプライン水利施設維持管理運営費特別会計

▷収入…779万円 ▶支出…778万円

農業用水を確保するために室木の谷山池から倉坂地区まで約13キロにわたって設置されているパイプラインを維持管理するための会計です。収入は、基金からの繰入金や基金を運用して購入した国債などの利息です。



水道事業会計

▷収入…3億1,913万円 ▶支出…3億541万円

水道事業の運営のために設けられた会計です。収入の大部分は、私たちが支払った水道料金です。支出は、安全な飲み水を作るための費用です。

●給水戸数 6,723世帯 ●給水人口 15,799人



病院事業会計

▷収入…25億8,811万円 ▶支出…26億7,790万円

町立病院の運営のために設けられた会計です。収入の大部分は、受診による個人負担と診療報酬です。支出は、安全で安心な医療を提供するための費用で、人件費や材料費などが多くを占めています。

●年間延べ入院患者数 65,156人 ●年間延べ外来患者数 68,643人



介護老人保健施設事業会計

▷収入…3億2,591万円 ▶支出…3億1,400万円

介護老人保健施設（鞍寿の里）の運営のために設けられた会計です。収入の大部分は、施設で行ったサービスに対して支払われる介護報酬です。支出は、自立支援に必要な介護機能訓練などを提供するための費用で、人件費や材料費などが多くを占めています。

●年間延べ入所者数 21,385人 ●年間延べ通所利用者数 8,653人



特別会計

(収入)

30億
2,430万円

(支出)

30億
7,488万円

一般会計のほかに町には、七つの特別会計と二つの企業会計があり、どの会計も私たちの暮らしを支えるために役立っています。

企業会計

(収入)

32億
3,315万円

(支出)

32億
9,731万円